

イギリス庭園紹介2

中 田 久 雄

緒言

イングランド中部地方のグロースタシャーの庭園を紹介する。開園日、時間、入場料等は(3)及び(8)により最新の情報を示した。また今回から簡単な道案内を示す事とした。

中部 (THE MIDLANDS)

●グロースタシャー (GLOUCESTERSHIRE)

ブリistolに注ぐセヴァーン川の流域の起伏に富む、所謂コッツウォルド地方の中心を成す地域である。蜂蜜色のコッツウォルドストーンと称する石灰岩の産地として知られ石造建築物の多くは此れにより独特の美しい景観をなす地域でもある。比較的乾燥気候で年間降雨日数は175日以下、降水量は1000mm以下で何れも全イングランドの平均よりも少ない。冬は西部地方よりも霜や雪が多く寒い。4月までは気温が15℃に達しない。しかしその後は気温も上昇し、夏は南部地方よりも高温である。7月の平均気温は22℃、最高気温は29℃に達する。

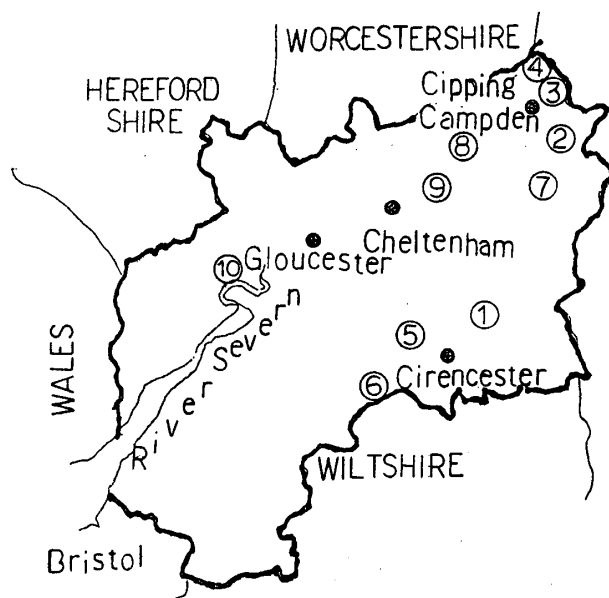


図1 グロースタシャー地図

- ①バーズリーハウス
- ②バツフォードアーバリータム
- ③ヒドコートマナー
- ④キフツゲイトコート
- ⑤オールドレクトリイ
- ⑥ロドマートンマナー
- ⑦セジンコート
- ⑧スノウズヒルマナー
- ⑨シュウドリーカースル
- ⑩ウェストバリーコート

①バーズリーハウス (Barnsley House)

家屋入り口の上に1697(建造年)と彫り込んだ、ドーマウインドウ*のあるコッツウォルドストーンの重厚なバーズリーハウスに付属した庭園である。現在イギリスに於ける最も著名な女流造園家、ローズマリーヴェアリ女史が1951年以来丹精込めた1.6ヘクタールの小庭園である。

家屋の前面にローンが広がり円筒形に刈り込んだイチイの並木を隔てて右側のローンの周辺に色とりどりの宿根ボーダーがある。その右辺に沿って低いツゲの刈り込みの中に各種宿根草を配したノットガーデンがある。ヴェアリー女史はノットガーデンの作家としても著名である。家屋左側面にヴェアリー女史の設計ではないが1864年にスティーヴン ブレイクにより設計された低く刈り込んだツゲを幾何学模様を組み合わせた見事なノットガーデン(写真1)が維持管理され、木地むきだしの木製テーブルや椅子等ガーデンファニチャが配置されてアフタヌーンティーの場を提供している。

家屋前面のローンの手前に低い石塀で仕切られたキッチンガーデンがありリンゴ等の果樹やケール、レタスその他各種野菜が植えられている。キッチンガーデンは本来菜園の事であるが、随所に草花も植えられ特に公開庭園に付随したキッチンガーデンは概して実用と共に多分に装飾的な色彩が強い。



写真1 ノットガーデン：バーズンリーハウス

キッチンガーデンの右手にはローンが開けその周辺に赤葉のブナ(カッパービーチ)その他の樹木の植え込みやロッケリー*、ボーダー等があり一寸風変わりな、蛙の像の石造小噴水がある。

- * ドーマーウィンドウ(Dormer-window) : 屋根の斜面から突き出した採光用の窓。
- * ロッケリー(Rockery) : 丈の低い簡単なロックガーデン。

Barnsley House

Mr. and Mrs. Charles Verey

Barnsley, Cirencester GL7 5EE.

Tel: (01285) 740561; Fax: (01285) 740628

サイレンセスタ(Cirencester)の北東 6.4km、 B4425沿いに在り。

開園日：2月1日-12月16日：月、水、木、土曜日：10am-5:30pm

入園料：大人：£3.75、老人：£3、小人(12才以下)：無料

車椅子可、トイレット、売店、種苗販売所あり。

②バッツフォードアーバリータム (Batsford Arboretum)

明治初期、東京駐劄英国公使館員で後にリーデスデイル卿となったアルジャーノン バートラム フリーマン ミットフォードにより1880年代に自然庭園として計画された。標高180-240メートルのコッツウォルド台地に位置し約20ヘクタールの地に1500種以上の樹木、灌木、竹類が集められている。

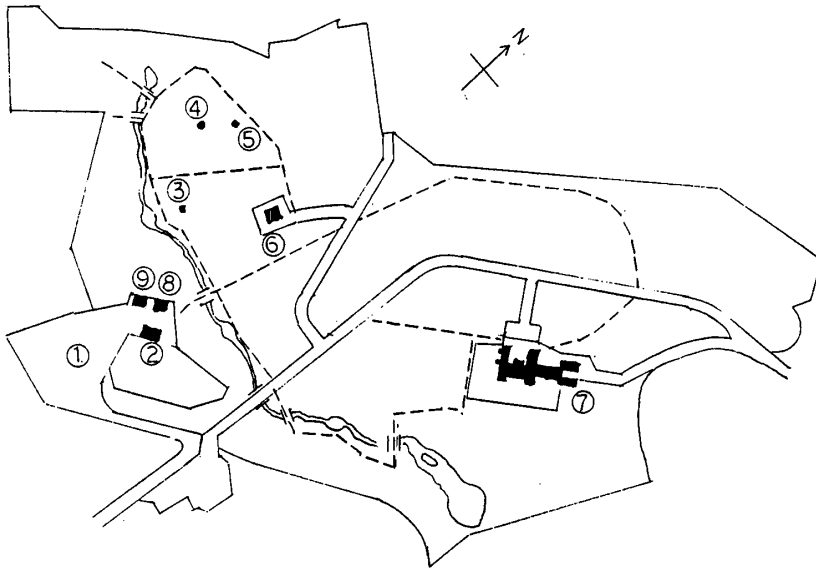


図2 バッツフォード
アーバリータム 案内図

- ① 駐車場
- ② ガーデンセンター
- ③ 鹿の像
- ④ 仏像
- ⑤ レストハウス
- ⑥ 茅葺きの小屋
- ⑦ バッツフォードハウス
- ⑧ ティールーム
- ⑨ トイレット

駐車場からガーデンセンターを通り抜け坂道の石段を登ると赤いお稲荷さんの鳥居まがいの門をくぐり林地へと入って行く。リードスデイル卿の日本趣味によって件の鳥居を始め園内各所に青銅製の鹿、龍、仏像等が配置されている。件の仏像は場所柄に不似合いとも思われるがカラマツの巨木を背に台座、光背も入れて高さ3メートルにも及ぶ立派な座像であり周囲に大小の樹木、灌木の生い茂る静かな林地の空間に鎮座し東洋的雰囲気醸し出すに十分な存在である。小川に沿ったカバの林の中の園路を進むとカッパービーチの巨木が聳えている。此の近辺には日本よりもたらされたカエデやタケ類のコレクションがある。

レストハウスの奥、モミジバフウ、ハンノキ、カツラ等の木立の間を通過して、放牧地に通ずる車道を横切りトチやオークの大木の中の草付きのやや急な斜面を下ると車道を隔てた彼方、霧の間にツタの絡んだ美しいコッツウォルドストーン造りの非公開のバッツフォードハウスが見える。車道を戻り小川を渡り小道をたどれば入り口ガーデンセンターに戻る。ガーデンセンターとティールームの間には各種の草花や樹木の苗が所狭しと並べられ販売に供されている。

Batsford Arboretum

The Batsford Foundation

Moreton-in-Marsh GL56 90F.

Tel: (01386) 701441

A44イヴシャム (Evesham) 方向モートンインマーシュ (Moreton-in-Marsh) の北西2.4kmの地点に在り

開園日：3月-11月中旬：毎日開園：10am-5pm

入場料：大人：£3.50、老人：£3、小人(16才以下)：無料

車椅子可、トイレット、軽食堂、売店、種苗販売所あり。犬は飼い主の誘導を要す。ピクニック可。

③ヒドコートマナーガーデン (Hidcote Manor Garden)

1907年ローレンス ジョンストンにより開設された。買収当初コッツウォルド台地の何の変哲もない農地であったものを40年に亘るジョンストンの努力によって20世紀イギリスに於ける最も著名な庭園として今日見る如き姿となった。その間第一次世界大戦に従軍し重傷を負ったが、これに屈せずプラントハンターとして採集旅行に南アフリカや中国西部に遠征し数多の植物を導入した。1948年以来庭園はナショナルトラストに寄託されて居る。

標高 180メートル、4ヘクタールの敷地にそれぞれ異なった特徴を持つ大小20余の庭園が配置され、各々がイチイやシデの生け垣によって仕切られて居り、然も此れらが混然一体となって全体を構成している所に当園の素晴らしさがある。

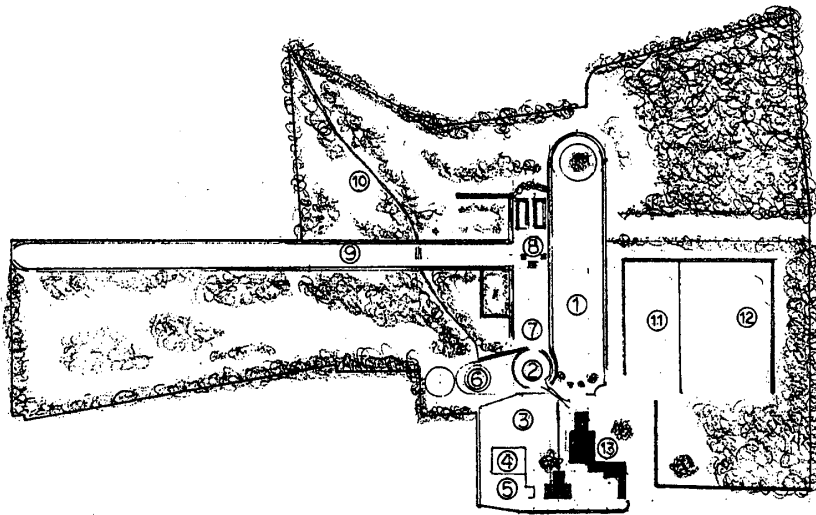


図3 ヒドコート マナー 案内図

- ①シアターローン
- ②サークル
- ③オールドガーデン
- ④ホワイトガーデン
- ⑤メープルガーデン
- ⑥ベイジングプールガーデン
- ⑦レッドボーダース
- ⑧ガゼボ
- ⑨ロングウォーク
- ⑩ロウアーストリウムガーデン
- ⑪ローズボーダース
- ⑫キッチンガーデン
- ⑬ガーデンヤード

左右に作業舎を配した石造の館の右手の小道を抜けると右手に高い生け垣を回らした幅20メートル長さ 100メートル以上にも及ぶ広く平坦な芝地があり、その末端に二三の小樹木の植え込みのある円形のステージを配したシアターローンが見える。此処はその名のとおり毎年7月に行われる野外劇の舞台となる。そこを見過ぎて進むと円形の生け垣の中に円形の花壇を中心にしたサークルに導かれる。左手に進むと館の裏手のやや広々としたオールドガーデンを通過して高い生け垣のアーチを抜けるとホワイトガーデン更にその奥メープルガーデンに至る。この二つは小規模な庭園で特にホワイトガーデンは高いイチイの生け垣と鳥のトピアリに囲まれ、フレイムフラワー (ナスタチュウム) の鮮やかな赤い花によって彩られたイチイの生け垣の背後に茅葺き屋根見える。サークルに戻り左折してシデとカッパービーチの生け垣のアーチを潜り一段下がったフクシャガーデンに至る。更に数段の石段を下るとベイジングプールに至る。此処は当初小さな水浴プールであったものをジョンストン自身によって拡張され今日見る中心に噴水を配した円形プールとなった。生け垣と樹木に囲まれ、樹木の梢の彼方に館の屋根が望まれる。左手イチイのアーチの彼方奥まった狭い空間に木造の待避小屋がある。時恰も通り雨に見舞われ雨宿りに格好の場所となる。小屋の壁面には剣を振りかざしイスラム人と戦う騎馬武者の陶板画が飾って

イギリス庭園紹介 2

あって無聊を慰めてくれる。元に戻って振り返るとプール越しにトピアリや刈り込みのアーチの彼方にホワイトガーデンやサークルを散策する人影が垣間見えて一興を添える。

サークルに向かって左手、オールドガーデンの反対側にレッドボーダーズ、スティルトガーデンと続き、オールドガーデンから見通す線が当園の基本主軸となっている。即ち何れも歩道の両側に細長い花壇が続き、レッドボーダーズでは四季折々の赤系統の草花が植えられ、数段の石段を登った一段高いスティルトガーデンではシデの刈り込み生け垣とその先にイチイの縁取りのある花壇が接続し、その先は鉄柵の扉を介して放牧地の借景となっている。レッドボーダーズとスティルトガーデンとの境の石段の上には一対のガゼボ（四阿屋）が建っている。両者はツインを成し煉瓦造りの堅固なものである。又々通り雨に逢って避難する。広さは四畳半位で作り付けの腰掛けが設えられてあり壁面には陶板画が飾られて居る。

ガゼボから主軸に直行して両側をシデの高い生け垣に画された広く長い芝地ロングウォーク（写真2）が南北に伸びて居る。その長さは270メートルにも及ぶという。その末端にはやはり鉄柵の門扉がありその先は羊の群れる広い放牧地、典型的なコッツウォルドの景観を成している。ロングウォークの中ほどに小川が東から西に向かって流れている。ガゼボに向かって左手、即ち西がわの小道を辿れば一帯がロウアーストリームガーデンとなっている。ブナやカバの木立の中、流れに沿って水生植物が植わり、岸边にはサクラソウ、ギボシ、カンゾウ、アヤメ等が植わり、雨上がりの木漏れ日が石畳の歩道照らしている。ストリームガーデンの歩道を道なりに進めば道はUターンしてやがてロックバンクを経てピラーガーデン、テレース更にスティルトガーデンへと戻る。シアターローンとの境のシデの生け垣の潜りを抜けシアターローンを横断してカメラアコーナー、パインガーデン、ローズボーダーを経てキッチンガーデンに至る。此処はもと野菜畑であったが現在では一部にリンゴとナシが植栽されている。引き返して入りロガーデンヤードに戻る。

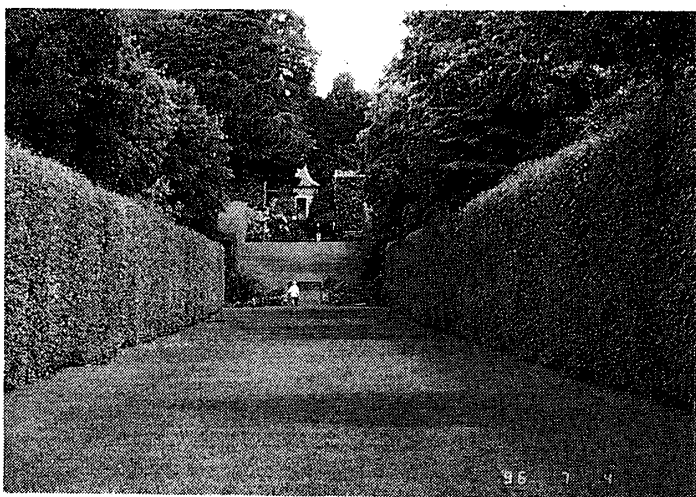


写真2 ロングウォーク：ヒドコートマナー

Hidcote Manor Garden

The National Trust

Hidcote Bartrim, Chipping Campden GL55 6LR.

Tel: (01386) 438333; Fax: (01386) 438817

チッピングカムデン(Chipping Campden)の北東 4.8km の地点、道標在り。

中 田 久 雄

開園日：4月1日－5月21日及び8月－11月5日：火曜日、金曜日を除く毎日

5月22日－7月：火曜日も開園

開園時間：11am-6pm(10月は5pm)最終入園は閉園1時間前

団体は文書による予約に限る。

入園料：大人：£5.60、小人：£2.80、家族(大人2人に子供4人まで)：£14

車椅子可、トイレット、軽食堂、売店、種苗販売所あり。

④キフツゲイト コート (Kiftsgate Court)

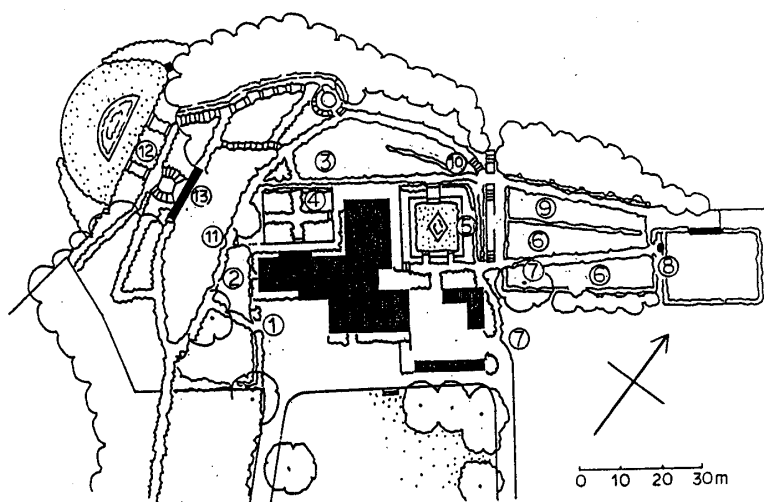


図4 キフツゲイト コート 案内

- ①庭園入り口
- ②メギの生け垣
- ③ワイドボーダー
- ④フォースケア
- ⑤ホワイトサンクガーデン
- ⑥ローズボーダー
- ⑦キフツゲイトローズ
- ⑧サイモンヴェリティーの腰掛け
- ⑨イエローボーダー
- ⑩ノースボーダー
- ⑪バンク
- ⑫ロウアーガーデン
- ⑬サマーハウス

館は1887年から91年の間にミクルトンに大別荘を所有するシドニイ グレイヴス ハミルトンによって建築された。庭園は第一次大戦後ここに移住して来た、現在の所有者の祖母ヒーザー ミュアによって1918年に開園された。その後ヒーザーの娘ダイアニ ビニイ、孫娘のアン チェンバースの3代の女性によって維持されて来た。

館の南西隅の入り口から庭園に入ると館の西側に沿って略真つすぐ平坦な狭い敷石の歩道が50メートル程続く。館側は低い石垣の上にメギの園芸品種ローズグロウの赤葉の生け垣が見事である。反対側は崖になっているが高い木立に遮られて崖は見えない。木立の裾には小灌木の植え込みがある。歩道は緩く右にカーヴして東西方向に向かい、ここからワイドボーダーを隔ててイオニア式列柱を配した館のガーデンファサード(写真3)が

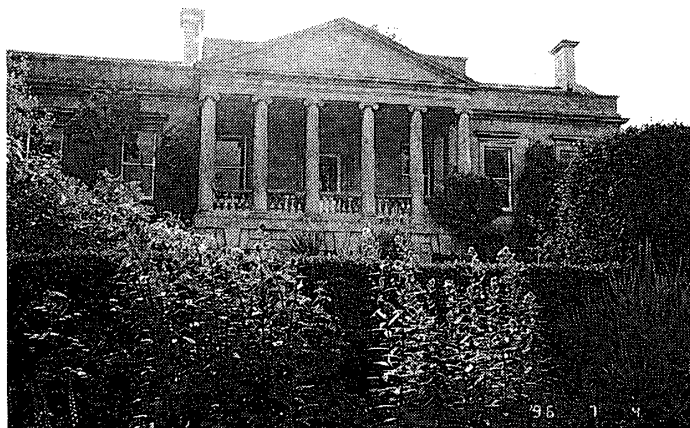


写真3 ガーデンファサード：キフツゲイトコート

イギリス庭園紹介 2

見える。ワイドボーダーに至る手前の石段を登ると館のガーデンファサードの前に中心に日時計を配し、田の字型に仕切った四角い花壇、フォースケアーがある。館の東側にはホワイトサンクガーデンがある。ガーデンの中央に八角形の池と更にその中心に円筒形石造の泉頭を持った噴水を備えた20メートル四方の沈床園で、当初ホワイトガーデンとして設計されたが現在は様々な色彩の小灌木や宿根草が植え込まれている。ホワイトサンクガーデンから北東に向かって進むと、歩道の両側にローズボーダーが30メートル余り続く。ボーダーの縁取りには丈の低い赤花のロザムンディ (*Rosa gallica officinalis* 'Versicolor') が植え込まれ、その南側の館の近くの背後に「キフツゲイトのバラ」として知られる蔓性の *Rosa filipes* 'Kiftsgate' が茂り、その一部はその背後のカッパービーチにはい上がり高さ15メートルに達している。ローズボーダーの歩道の末端ソルブスの刈り込みアーチの奥にサイモン ヴェリティーの設計に成る人型の背もたれのある一風変わった腰掛けが設置されている。その手前を左折してローズボーダーの北側に続くイエローボーダーに沿う歩道を西方に、即ち元に戻る方向に進み、ノースボーダーに沿って行くとやがてヨーロッパアカマツの大木の下に狭い円形のテラスがあり、バンクと呼ばれる急な崖に設けられた石段を下り、最下段の庭園ロウアーガーデンに至る。直径40メートル程の平坦な半円形の芝地の中央に地形に合わせた半円形の池を穿った園地である。その末端から眼下遥かにミクルトンの町並みが望まれる。振り返ると崖の中腹にサマーハウスが見えその彼方崖上の木立の隙間から列柱のある館のガーデンファサードが瞥見される。サマーハウスの下には壁面噴水があり人面彫刻の口から水が噴出している。右手の別の坂道を登って最初の歩道から庭園出入り口に戻る。館の前庭には青く塗装された畳一畳程の木製の台が10脚程設えられ、その上に草花の苗が所狭しと並べられ客が集まり、あれこれ品定めしている。当園は地形を巧みに利用し、小さいながら優れたデザインで良く纏められた庭園である。

Kiftsgate Court

Mr. and Mrs. J. G. Chambers

Chipping Campden, Gloucestershire GL55 6LW

Tel/Fax: (01386) 438777

チッピングカムデンの北東 4.8km、ミクルトン(Mickleton)近辺、ヒドコートに近接、道標在り。

開園日：4、5、8、9月：水、木、日曜日とバンクホリデイ：2-6pm

6、7月：水、木、土、日曜日：12noon-6pm

入場料：大人：£ 4、小人：£ 1

トイレット、軽食堂、種苗販売所あり。

⑤オールドレクトリイ (The Old Rectory)

1993年以来女流造園家メアリ キーン女史によって造成された0.4ヘクタールの比較的小規模の庭園である。当園の特徴は家屋の側面の傾斜地に造成された女史の苦心作キッチンガーデン(写真4)にある。地形を巧みに利用した菜園には野菜、花卉、果樹を巧みに配置し、これらが混然一体となり、隣地更にその彼方の放牧地等コッツウォルドの景観を借景とした愛すべき庭園である。

隣地の草付き斜面に14世紀のノルマン様式の子びた教会ダンティスボーンルースチャーチ(写真5)があり、付属の墓地と共に閑静な空間を保っている。

The Old Rectory
Charles and Mary Keen
Duntisbourne Rouse, Daglingworth,
Cirencester GL7 7AP

A417 をサイレンセスタで降り、ダグリンワース(Daglingworth)を経て狭い谷筋をダンティスボーン(Duntisborn)方向へ 800m、教会の右隣り。

入場料：大人：£ 2.50、

小人：無料

トイレットの設備あり。



写真4 キッチンガーデン：オールドレクトリイ



写真5 ノルマンチャーチ：ダンティスボーンルース

⑥ロドマートンマナー (Rodmarton Manor)

1909年クロード ビダルフの求めに応じてアーネスト バーンズリーが設計しマーガレット ビダルフとそのヘッドガーデナー、ウィリアム スクラビーの指揮の下に造成されたカントリーハウスと庭園である。建築と造園が同時に進行し、庭は石積みの壁や、イチイ、ブナ、ヒイラギ、ツゲ等の美しい生け垣によって仕切られた、それぞれ特徴あるアウトドアルームの幾つかで成り立っている。

駐車場から両側に高いシデの刈り込み生け垣とローンを配し中央に簡易舗装を施した広く長い進入路をたどると館前の広いローンに達する。館はドーマーウインドウを持つ都合三階建ての美しいコッツウォルドストーン造りで、左右両翼を合わせると 100メートル近くにも及ぶ壮大なものである。

館前の一隅には生け垣と灌木の植え込みを背後にして長いロッケリーがあり、様々なロックプランツが花盛りである。館正面右手横を回ってガーデンファサードに出るとそこは生け垣で幾重にも仕切られた小規模なガーデンがある。敷石の両側に宿根草を植え込んだ宿根草花壇、その先

イギリス庭園紹介2

のパーゴラにはヤマブドウが纏わり、自然の雰囲気を醸し出している。ローズガーデンにはオールドローズを始め各種のバラが花盛りである。長方形の敷石の中央に中にバラを植え込み周囲をベルフラワーで縁取りしたペーヴドガーデンはバラの黄白色とベルフラワーの紫色の対比がみごとである。当園の特色の一つにトピアリーがある。各ガーデンの随所に方形、球形、円錐形等のイチイヤツゲの刈り込みが興味を添えている。中でも方形の敷地の両側に石積みの低い塀を備え、その前面に球形と大小の円筒と頂端に円錐を組み合わせた刈り込みを交互に配置し中央に円形の飛び石を配置し末端両側に低い石門の柱頭に草花を植え込んだ石造飾鉢を置きその彼方にコッツウォルドの田園風景を借景とした庭園（写真6）は見事であり、斯く自然と人工とを巧みに融合せしめるテクニックは近年のイングリッシュスタイルの一つの特徴である。

Rodmarton Manor

Mr. and Mrs. Simon Biddulph
Rodmarton, Cirencester GL7 6PF.
Tel: (01285) 841253,
Fax: (01285) 841298

サイレンセスタの南西9.6km テトバリー(Tetbury)の北東 6.4km の地点でA433から北へ 1.5km。

開園日：5月10日－8月28日：水、土曜日とバンクホリデー：2-5pm その他の日は予約を要す。

入場料：庭園：大人：£2.50、同伴の小人(14才以下)：無料

館内と庭園：大人：£6、小人：£3

車椅子可、トイレットの設備あり。



写真6 ボクストピアリーガーデン：ロドマートンマナー

⑦セジンコート (Sezincote)

一風変わった建築物に付随する庭園である。1805年に完成した家屋はベンガル派遣軍から帰還したジョン コクラル大佐の相続人、末弟の東インド会社社員チャールズ コクラル及び建築家サムエル ピープス コクラルが兄ジョン コクラルの遺志を継いでインド風に仕上げた物である。

駐車場から広い草地を歩いて庭園入り口に向かう。鬱蒼とした森の中の通路をたどりストリームガーデンを跨ぐインディアンブリッジを越えるとやがて館の偉容が現れる。館は屋上に青色の葱坊主様のクーポラ*を備えた略々方形の石造二階建てで赤銅色を呈している。館の正面玄関は東面し、その前面に広い草地がなだらかな下り勾配を以て展開している。館の左側即ち南面にパラダイスガーデン（写真7）があり、館の西面二階部分からオランジュリー（温室）が細長く弧状に伸びており、その末端に八角型の小さなパヴィリオンが付設されている。館の南面二階の窓及びそれに続くオランジュリーの窓には孔雀の尾羽根様のアーチ模様が施されている。オランジュ

中 田 久 雄

リーの中にはヘデラ、トケイソウ、ジャスミン等の蔓性植物が壁面を覆っている。

庭園全体の結構はハンフリー レプトンによると言われているが、このパラダイスガーデンは1965年にクラインワート女史により造成された。中央に噴水を備えた外周八角型内縁直径2メートルばかりの円形の小池を配し、南北方向のカナルと東西方向の園路によって園地を四等分し、カナルと園路に沿ってアイリッシュイチイが植栽されている。

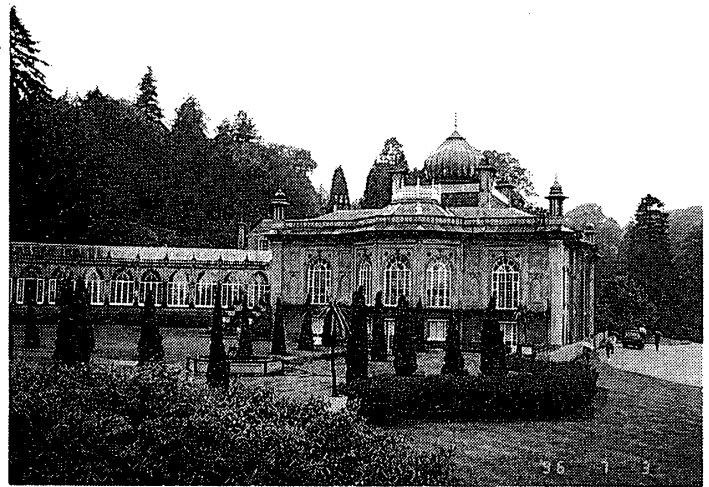


写真7 館と温室及びパラダイスガーデン：セジンコート

館の北西隅から登り勾配の園路を進むと敷地の最高部の鬱蒼とした木立の中に、池を前面にして小さな祠、スーリヤ*の神殿がひっそりと立っている。この池を水源として水流の両側に水湿植物を植栽したストリームガーデンが先のインディアンブリッジを潜って流れ下っている。ストリームガーデンの下流からの館の眺めもまた荘厳である。館並びにオランジュリーの背後は鬱蒼とした樹木に覆われた小高い丘となっている。オランジュリーの末端のパヴィリオンの出口から園路を辿り右手の丘を越えるとテニスパヴィリオンと称する小さな四阿屋に至る。ここから広い草地の彼方に広がるパーク（狩猟地）の眺めも壮大である。

* クーポラ (Cupola) : 尖塔或いは屋上の球状の屋根。

* スーリヤ (Surya) : ヒンドウの太陽神

Sezincote

Mr. and Mrs. D. Peak

Moreton-in-Marsh GL56 9AW

モートンインマーシュの西 2.4km の地点ブートンオンザヒル (Bourton-on-the-Hill) の直前を左折1.6km、右折すればバッツフォードアーバリータム。

開館日：5 - 7月及び9月：木、金曜日2:30-6pm (子供入館不可)

開園日：1月-11月：木、金曜日とバンクホリデイ：2-6pm (又は日没まで)

入園料：大人 £ : 3.50、小人：£1、5才以下：無料

入館入園料：大人：£ 5、小人入館不可

車椅子不可、犬は飼い主の誘導を要す。トイレットの設備あり。

⑧スノウズヒルマナー (Snowhill Manor)

チャールズ パジェット ウェイドが19世紀の始めにこのマナーハウスを入手し造園を始めたが、現在はナショナルトラストの所有に帰している。

イギリス庭園紹介 2

標高約 200メートルのコッツウォルド丘陵の斜面にマナーハウスと庭園がある。駐車場から館に通ずる起伏のある遊歩道を 500メートルばかり辿るとやがて草を食む羊の群れる放牧地の彼方に棟を連ねた横長の館が見えて来る。恐らくは数次に互り築造されたものと見えて棟の高さ、方向、窓配置等複雑多岐を極めながら壁面はコッツウォルドストーンのハニーカラーで統一されているので混沌とした中にも調和を保っている不思議さがある。館の正面は一棟で屋根は共通に葺かれているが築造年次を異にするため玄関を含む右半分とそれに続く左半分とでは明らかに違いがある。古い方の右半分は灰白色の石造で左半分はコッツウォルドストーンのハニーカラー（写真 8）である。庭園は灌木とポパイ、カンパヌラ、ペンステモン等の色彩豊かなダブルボーダーと古びた牛小屋の在るテラスガーデン、コッツウォルド丘陵を借景とした小さな四角い池のあるプールガーデン等、占めて0.8ヘクタール、広大な館に比べて小さなものである。テラスガーデンは長方形の芝生の周囲を敷石で囲みその長辺両側に灌木と草花のボーダーを設け短辺の一方に牛小屋、その対辺に木製のベンチを置いた石造のサマーハウスを配置している。



写真 8 館ファサード：スノウズヒルマナー

牛小屋の屋根には雨徐げの下に白いマリアの像が安置されており、サマーハウスの上部には天文時計を備え異彩を放っている。ベンチも天文時計もターコイズブルー*に塗装されている。

館内には建築家、工芸家、骨董品収集家として活躍したウェイドの多方面に互る収集品が展示されてあるが、見る暇がなかった。

* ターコイズブルー(Turquoise blue)：浅葱色(アサギイロ)、やや緑がかった青色。トルコ石の色からの連想。

Showhill Manor

The National Trust

Broadway WR 7JU

Tel: (01386) 852410

A44 をブロードウェイで南に進み4.8km 地点。

開館開園日：4月1日－11月1日：月、火曜日（バンクホリデイを除く）を除く毎日、4月21日は休館休園、7、8月は月曜日開館開園

開館開園時間：12noon-5pm(最終入館：閉館45分前)、時間入場券制あり

入場料：庭園：大人：£ 2.50

庭園と館：大人：£5.60、小人：2.80、家族：£14

身障者不可、犬入場不可、軽食堂、売店あり。

⑨シュードリーカースル (Sudeley Castle)

ウィンチクームの町外れの広大な敷地に建つシュードリー城は15世紀半ばラルフ ボトラーによって建造された。その後17世紀に至るまで数次に互り増改築され、一時ヘンリー8世の所領となったが、その死後寵臣トーマス シーモアに下げ渡され、後クロムウェルの革命軍によって破壊され長らく廃墟となっていた。現存の部分は19世紀に至りジョン及びウィリアム デント兄弟の生涯を賭けた努力によって丹念に修復されたものである。デント兄弟の相続人、甥のジョン クーチャ デントの夫人エマ デントはデント兄弟の遺志を継いで更に修復を続け内外の充実に努め、現在見られる情景となした。また当城はヘンリー8世の最後の王妃キャサリン パーが寡婦となった後、トーマス シーモアと再婚し1年余り住んだ後、産後の経過思わしからず36才の若さで亡くなり、城内のセントメアリチャペルに葬られた事でも知られている。

庭園は城館の内外に、それぞれ趣を異にした8箇所の小庭園で構成され、その外周にオークの巨木が散在する平坦な広い緑地が展開している。最も注目すべきは19世紀半ばに造成されたクイーンズガーデン(写真9)である。50メートル四方ほどの正方形の原初チューダー様式の花壇を基調とした整形式庭園で、その南北両辺には中に狭い通路をとり、幅15フィート(4.5メートル)に及ぶ二重のイチイのヘッジが見事である。このイチイは1856年に植栽された物であると言う。クイーンズガーデンの北側に1863年に復元されたセントメアリチャペルがありキャサリン パーの遺骸を納めた大理石製の石棺がエマ デントの設計に成るステインドグラスをバックに安置されている。城館の中庭アウターコートヤードにはローズマリー ヴェアリ女史の設計になる花壇がある。クイーンズガーデンの西側に壁面を一部残した1442年建築のボトラーの宴会場の廃墟があり庭園の構成要素となっている。夏日、この廃墟をバックに野外劇が催される。城館の北西に広い草地を隔ててタイズバーン* ガーデン(写真10)があり、屋根の抜け落ちた壁面にはフジその他蔓植物が纏わり、裾には宿根草花壇が自然のたたずまいを見せ、カナルには睡蓮が咲き緋鯉が泳ぎ、静謐な空間を形成している。



写真9 クイーンズガーデン：シュウドリーカースル



写真10 タイズバーン：シュウドリーカースル

イギリス庭園紹介 2

一般にイギリスでは廃墟をも造園の一部に見立てて利用する事に巧みで石造文化の一端を示すものと言える。

* タイズバーン(Tithe barn) : 領民の収穫物の10分の1を租税として徴収し収納するための倉庫。

Sudeley Castle

Lord and Lady Ashcombe

Winchcombe, Cheltenham GL54 5JD.

Tel: (01242)602308; Fax: (01242)602959

チェルトナム(Cheltenham)の北東12.8km、B4632ウィンチクーム(Winchcombe)に在り。

城開館日 : 4-10月毎日 : 11am-5pm

庭園開園日 : 3月-10月毎日 : 10:30am-5:30pm

入場料 : 庭園 : 大人 : 4.70、老人 : 3.70、小人 : (5-15才) : 2.50、5才以下無料

城館と庭園 : 大人 : £6.20、老人 : £5.20、小人 : £3.20

団体(20人以上)大人£ : 5.20、老人 : £4.20、小人 : £3.20

ピクニック、車椅子可。トイレット、軽食堂、売店、種苗販売所あり。

⑩ ウェストバリーコートガーデン (Westbury Court Garden)

イギリスに残こされた数少ない17世紀オランダ式庭園である。1696年メイナード コルチェスターにより建設開始され1705年に原型が完成した。その100年後コルチェスター家の不在中も庭園は管理されていたが1960年に売りに出された後荒廃し、1967年にナショナルトラストが入手し復旧に努め、オレンジ公ウィリアム時代のオランダ式设计を示す数少ない典型として存在している。

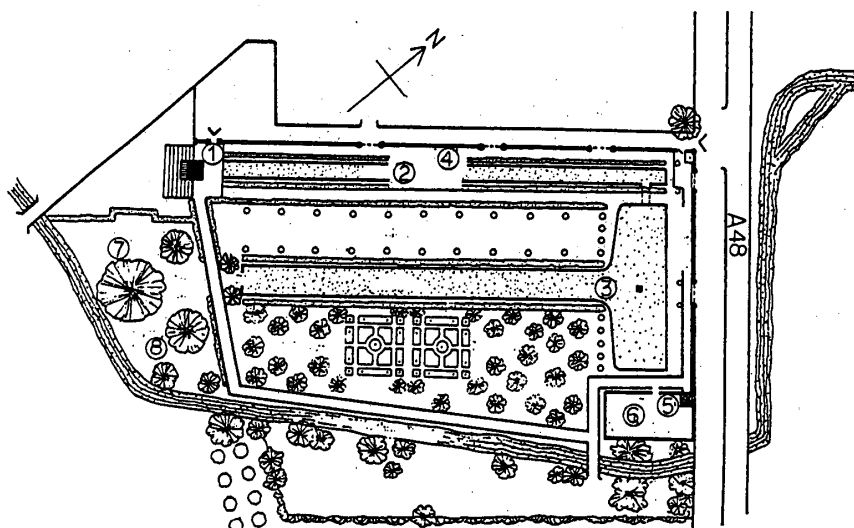


図5 ウェストバリーコート案内図

- ① トールパヴィリオン
- ② ロングカナル
- ③ Tカナル
- ④ ウェストウォール
- ⑤ ガゼボ
- ⑥ ウォールドガーデン
- ⑦ トキワガシ
- ⑧ チェウリップトリー

駐車場から入り口門を入ると直ぐ地階正面にイオニア式円柱を配し屋根上に塔屋を置いた3間四角の煉瓦造り2階建のトールパヴィリオンがあり、2階から正面にロングカナル(写真11)とその右側に広がる庭園全体、更には遥か彼方セヴァーン川の河川敷に広がる牧草地が借景として眺められる。2階広間の壁面には往時の俯瞰図や配置図その他17世紀の植物画等が飾られてい

中 田 久 雄

る。トールパヴィリオンの前面に長く伸びるロングカナルは長さ 135メートル、幅 6.6メートルにおよび、その末端は公道に面し鑄鉄製のフェンスで遮られている。ロングカナルの西側に平行して煉瓦塀がナショナルトラストによって築造された。そこにはリンゴ20品種、ナシ7品種、スモモ7品種の壁付け栽培があり、何れも16、7世紀の品種である。イギリスでは特に植物園や果樹園でなくとも各所にこのような古い希少品種の保存栽培が見られる。公道側のロードウォールの裾にはオールドイングリッシュラヴェンダーやその他薬草類が見られる。敷地の北西端に在るガゼボ（四阿屋）とロングカナルに平行するTカナルは後にメイナード コルチェスタ 2世によって付加されたものであると言う。ガゼボは3メートル四方程の小さな煉瓦造りで、それに接して煉瓦塀で仕切られた50坪程の小さなウォールドガーデンがある。中にはツゲの縁取りの整形式花壇に100種類に近い17世紀以前に存在していた植物が植わっている。また40種類のオールドローズのコレクションもある。Tカナルはロングカナルに平行



写真11 ロングカナル：ウェストバリーコート



写真12 チュウリップトリー：ウェストバリーコート

する略々同長の水路と此れと直行する約50メートル程の少々広めの水路とから成り、縦長のT字形をなしている。ロングカナル側には高いツゲのヘッジと円錐形に刈り込んだツゲが並んでいる。反対側にはやはりツゲのヘッジを境にして幾何学模様の整形式花壇と刈り込んだ果樹や小樹木を五点植えにした空間がある。花壇にはヒソップ、セイジ等ハーブが植わっている。Tカナルを廻ってトールパヴィリオンの方へ戻るとトキワガシとチュウリップトリー（写真12）の巨木が聳えている。トキワガシは目通りの幹周26フィート（7.8メートル）もあり国内最大、最古の物と思われ、17世紀初頭に植栽されたと推定される。その他マメガキ、ニセアカシア、クルミ等も植わっている。

イギリス庭園紹介 2

Westbury Court Garden

The National Trust

Westbury-on-Severn GL14 1PD.

Tel: (01452) 760461

グロースタの南西14.4km、A48沿いに在り。

開園日：4月1日－10月29日：水－日曜日とバンクホリデイ：11am-6pm、4月10日：休園日

その他の日時は予約を要し、団体（15人以上）は文書による予約を要す。

入園料：大人£：2.80、小人：£1.40

ピクニック、車椅子可。トイレットの設備あり。

参考文献

- 1 Hicks, David: Cotswold Gardens. George Weidenfeld & Nicolson. 1995
- 2 Hurt, Nicholas: Sudeley Castel & Gardens. Sudeley Castle. 1994
- 3 King, Peter: The good gardens guid 2000. Bloomsbury Publishing Plc. 2000
- 4 Lacey Stephen: Gardens of the National Trust. National Trust Enterprises Ltd. 1997
- 5 Peter, Helen & David Titchmarsh: The Complete Cotswolds. Jarrold Publishing. 1996
- 6 白幡洋三郎：プラントハンター。講談社 1994
- 7 The National Trust: Westbury Court Garden. National Trust Enterprises Ltd. 1995
- 8 Historic Houses & Gardens. Norman Hudson & Company. 2000
- 9 各庭園案内リーフレット及びパンフレット